

武藏野市第六期長期計画・第二次調整計画策定委員会
(策定委員と市民との意見交換会)

■日時 令和6年9月16日（月） 午後2時～午後4時7分

■場所 武蔵野市商工会館4階 市民会議室（ゼロワンホール）

出席委員：岡部委員長、中村副委員長、久留委員、鈴木委員、箕輪委員、吉田委員、
伊藤委員、荻野委員

欠席委員：木下委員、古賀委員

事務局が、意見交換の趣旨、「テーマ別論点集」の構成、会の進行上の注意事項について説明した。

続いて、委員長が挨拶し、策定委員会委員が自己紹介した後、意見交換を行った。

【市民A】 テーマ3「今後の学校改築のあり方検討」は文章量が少ないと感じた。内容をもっと知りたいと思った。詳細をご説明いただかなければいけないので、第六期長期計画・調整計画では、二中・六中の統廃合をするかしないか、今後子どもたちや地域の方、卒業生、様々な方を含めてどんな学校が必要か検討すると書いたが、うまく伝えられなかった。二中・六中という具体的なところを白紙にして、もう一度全市的に考えたいという市長の公約を踏まえて、今後学校改築のあり方について検討するための書き込みをする形なので、具体的な内容はここには書いていない。

【A委員】 老朽化した学校は今後、改築、建築していくかなければいけないので、第六期長期計画・調整計画では、二中・六中の統廃合をするかしないか、今後子どもたちや地域の方、卒業生、様々な方を含めてどんな学校が必要か検討すると書いたが、うまく伝えられなかった。二中・六中という具体的なところを白紙にして、もう一度全市的に考えたいという市長の公約を踏まえて、今後学校改築のあり方について検討するための書き込みをする形なので、具体的な内容はここには書いていない。

【市民A】 14ページの3の（2）「将来の教育を見据えた校舎（教育面・建築面）について」に大変興味がある。「教育面では、主体的、対話的で深い学びを進めるとともに、（中略）を進める必要がある」の内容がもっと書かれていると、私としてはありがたい。小・中学校についての多面的な検討を注意して見ていただきたい。

【委員長】 市長公約は「二中・六中の統廃合は白紙に」ということだが、市長との意見交換会で、白紙は「なし」という意味ではなく、要否を含めてゼロベースで考えていくという市長の認識を確認した。みんなが行きたくなる学校づくり、質の高い教育を武蔵野市

はやっていくべきだというのは論をまたないが、生徒数の減少も含め、どうするかという議論はこれからだ。

【市民B】 学校のことについて。統廃合の話は去年の5月ぐらいにいきなり出てきた。コスト削減のためという話が漏れ伝わってきたので、開かれた学校づくり協議会内でも、それは違うのではないかという話をした。地域の住民の方に広く意見を聞くということをしないままに話が前に進んでいく感じがあった。

また、学校は基本は教育の場だが、地域の核となる場所でもある。防災等の観点からも考えて、建て替えを進めていただきたい。

【委員長】 学校改築や統廃合の要否の議論で、コスト削減ということは全く出てこなかった。

【A委員】 私たち策定委員会にも、コスト面でという説明ではなかった。私は学校の統廃合をする必要があるのか、ないのか、どんな学校建築にするのかということについては、子どもたちのことをまず教育面から考えてくださいと申し上げた。委員全員、教育面を第一に考えてほしいという考え方であり、そこを強調して書いたつもりだったが、うまく伝わらなかった。

学校は地域の核となる場であり、まずは子どもたちの場であるということをしっかりと考えていただけるように、書きぶりを考えていきたい。

【副委員長】 既に話されているとおり、まずは教育としてどういう環境を用意するのか。一方で、コストを考えなくていいというわけではない。中学校を1校建てるのに今までには70～80億円かかっていたが、今の建築工事費の高騰を考えると、100億近くになると思われる。武蔵野市が年間約700億の予算規模の中において、1校当たり100億は大きな負担になる。このあたりの議論が不足している。また、今、市内では、10トントラックの入らないようなところにマンションを建てるということが起きている。そのようなことを周辺の住民は受け入れるかというところも考えていかなくてはいけない。

【市民C】 学校改築について確認したい。14ページの「テーマにおける論点」は、今にもこの計画で統廃合するかしないかを判断しないといけないかのような書き方だ。そうではなくて、二中・六中と書いたが全市的なほうに持っていくという書き込みにするかどうかを検討しようということだという理解でいいか。

防災の話も含めて論点はこれだけではない。少人数学級を検討しないで前に進んではいけない。ここにあるのは今後検討することになるたくさんの論点の一部であるという解釈でいいのか。

【委員長】 今、中学校は生徒数が半減して規模が小さくなり、部活の多様性が維持できなくなっている。また、マスとしてのリーダーシップ教育が難しくなっている。小学校は規模が小さいほうがいいかもしれないが、中学校は一定の規模があるほうが、教育環境的にはいいのではないか。そういう議論も行われるべきだと私は思うが、いかがか。

【市民C】 そういう議論があったほうがいいと私も思う。

部活については、学校教育計画に書いてある。これからは部活の地域化で、武蔵野市内のどの学校からでも入れる武蔵野市のチームのような形で部活をつくることが検討されているようだ。STEAM 部のような新しい部活を創設しようという話もあり、部活についてはあまり心配していない。

今求められているリーダーシップは、お山の大将のような人ではなくて、チームマネジメント、チームを回す力をみんながつけていくというもので、リーダーシップの醸成に何人いないといけないということはない。

【A委員】 全市的に検討するという方向で、二中・六中だけでなく、大きい学校、小さい学校、通う距離のことなど様々な観点から考える。全ての子どもにとっていい学校というのは難しい部分があるが、子どもたちにとって、また、武蔵野市全体で、どういう学校教育が行われ、そのためにはどんな建築が必要かを考えいかなければいけない。14 ページの「テーマにおける論点」(1)、(2)以外にも論点はたくさんある。建築面の専門家や、公立の小・中学校に通う子どもたち、その保護者の意見を聞き、議論を行っていくために、二次調の書き込みを検討する。

【市民D】 テーマ3 「今後の学校改築のあり方の検討」の3の(2)「将来の教育を見据えた校舎」(14 ページ)について。今、五中と一中で校舎の改築が進んでいる。間もなく小学校のほうも工事が始まる。各工事が始まる前に改築を協議する会議があり、そこでこれからを見据えた教育について議論されたが、3～4年前のことなので、議論の見直しが必要だ。今の五中、一中の新しい校舎は、図面を見ると、四角い教室に 40 個の机が並ぶ昔ながらの形だ。スケルトンインフィルで壁が動いてアレンジできるとのことだが、本当にそれでいいのか。子どもの定数の見直しは、武蔵野市だけでは難しいが、自治体でで

きることもあると思う。

同ページの3の(2)の3~4行目に「教育DX、特別支援教育、不登校対応を進める必要がある」とあるので、特別支援教育の書き方についても工夫してほしい。

六長調の、インクルーシブ教育の実現を目指すためにインクルーシブ教育システムを充実させるという書き込みをもう一つ先に進めるように、「将来の教育を見据えた校舎と学びができる学校づくり」については、校舎だけでなく教室の中の環境も含めたところに手が届くような書き込みに変えてほしい。

【A委員】 今回の二次調は、論点集に提示した論点についての書きぶりをどうするかであり、六長調のインクルーシブ教育についての書きぶりまで変更するのは難しい。

ただ、この論点がそのまま二次調に載ってくるわけではない。新しい学校の建築をどうするかという会議が、「全市的に」と書くことによって立ち上がり、市民の皆さんやお子さんたちの意見を聞く場ができる。その場において、インクルーシブに関してや、行きたくなる学校をつくることについてのご意見いただけけるように、書きぶりを考える。

【委員長】 思い起こせばこの意見交換会等でインクルーシブ教育、インクルーシブ教育システムについて書き込めというご意見をいただいたことから、私どもも勉強して六長調に書き込んだ。二次調では、みんなが行きたくなる、よりよい学校、地域の人が誇りに思える学校の建築ということが強化されていくと思う。

【副委員長】 長期計画というものの位置づけをもう一回皆さんで確認していただきたい。

武蔵野市の施策の最上位概念にある長期計画は市民がつくる。今回は市長選という、皆さんの意見を問うた選挙において小美濃現市長が当選され、その施策を展開するにあたって、今ある調整計画との間で整合がとりづらいものについて市民の意見をもう一回確認する。それが今回の二次調整計画だ。

一方で、市長が修正したいものは修正できるのに、市民が言っているものは修正できないというのは、調整計画の考え方からいっても私は間違いだと思っている。ただ、調整計画策定のための委員会は42回開いており、今回同じことをもう一回するのは無理があるので、まずは市長がやりたい施策に対して市民がどう思っているのかを確認し、二次調整計画を策定することになった。また、調整計画をつくった後、市は激変しているので、市民からの、これはどうなんだというものは付帯意見とするという整理にした。ただし、付帯意見としても書けないものは発言する意味がないということでは決してない。市民から出た意見は議事録に残るし、市役所にも直接伝わる。二次調でどういう書きぶりになるの

かは別として、皆さんが思っていることをこの場でいろんな形で言っていただくことは、調整計画の行財政分野に書かれた、市民と協働して、多面的、多様的に施策を設計していくということに相当するので、遠慮せずに意見を出してほしい。

【市民E】 学校の建て替えについて。二中・六中にも支援学級があった。学校は普通教室だけではない。困り感を持っている人たちにも対応できる、余裕のある形にしていただきたい。困り感を持つ人たちの幅は広いが、上手に対応することで伸びる。

また、小学校から中学校に上がるときに、境南からは四中に行くしかないが、距離が通学のハードルを上げている。生徒数はある程度まとまっているほうがいいと私も思うが、通えるという部分も踏まえて、教室のつくり方、特別支援の枠組みについても考え直して載せていただけるとうれしい。

【B委員】 今、学校教育計画の中間まとめが終わって、9月30日までパブリックコメントを募集している。ぜひご意見をいただきたい。次の学校施設整備基本計画につながるもの長計でどう反映するかは、策定委員会で検討する。今日いただいた意見は教育委員会にも伝える。

【委員長】 13ページの統計を見ると、市内児童数は6,000人強だが、市立中学校の生徒数は2,000人を割っている。約3分の1は地元の中学校ではなく、市外の私学や国立に行く。人によってはより遠い通学を選ぶ傾向があるが、地域の学校は、通学距離が近くなければダメか。

【市民E】 その子のレベルに合わせたところがどうしても必要になる。例えば、てんかんを持っているお子さんが遠い距離を通学するとなると親は不安になるが、知的に問題があっても、電車好きな子にとっては問題ないこともある。うちは、四中の前なので、温水プールで泳がせてあげたかったが、国立東京学芸大学の特別支援学校に行った。遠いかと思ったが、バスに一度乗って、電車に1つ乗れば着く。特例子会社に電車で通勤するようになったときのために、早くから電車通学に慣れておくというのも一つの手だ。どうしても市内で通わなければいけないというレベルの人に合わせるなら、遠からず近からずがいい。

一方で、心配する親御さんから、境南から四中まで通わせるのに「バスを出してくれ」という声が必ず出るが、私は子どもに寄り添って通学方法を考えることで、親子で一緒にレベルアップができると思う。ただ、仕事をお持ちの保護者が増えており、もうちょっと

子どもにつき合ってあげられないのかと乱暴には言えない面がある。

【市民F】 吉祥寺イーストエリアのまちづくりについて、今、事業者が大きなマンションを建てるということで周辺住民は非常に困っている。先日の建設委員会で、令和3年に美大が事業者に土地を売却していたことを初めて知った。令和5年に突然看板が設置され、住民は本当にびっくりした。あの大規模土地は、地区計画で 15 メートルの高さが許容されている。マンションが建つことは想像できたはずだが、市民に知らされることもなく、2年が経過した。基本構想が出された後、調整会が行われ、合意にはほど遠い状況だ。マスターープランも、駅から遠いこの東町地域は低層住宅地域となっている。一戸建ての隣に突然5階建てのマンションが接近して建つことになり、近隣のお宅は日照、プライバシー、圧迫感などにより健康被害が予見される。

また、美大通りは車が多く、本宿小学校や三中の通学路でもあり、近くの保育園児がふれあい公園に遊びに行く通り道となっている。狭い公開空地には一時駐車場2台が予定されており、歩行者の安全が守られているとは到底言えない状況だ。

事業者は、まちづくり条例に則っている、市と協議済みだと言う。市も、まちづくり条例に則って進めていると思うが、そこには市民がいない。市民がいなくて、市民を守るためにつくったまちづくり条例とは何なのか。市民が百戦錬磨の事業者を相手に戦うのは並大抵のことではない。早い段階で市民に周知し、市と市民が一体となつていれば、もう少し違っていたのではないか。残念でならない。市民生活を守るためのまちづくり条例が業者の盾となっている。平穏な生活を営んでいた周辺住民の生活が一変し、脅かされることになった事業者の吉祥寺東町三丁目計画による住民の被害の救済を求めつつ、まちづくり条例が市民のために機能するよう、改正を強く望む。

【C委員】 私はこの案件の詳細を知らないが、まちづくり条例を守っていさえすれば何をやってもいいというわけではない。武蔵野市のまちづくり条例は武蔵野市独自のもので、開発業者は、その条例を制定する自治体と穩便にやりとりする義務がある。周辺住民に対して紛争を起こさないという義務もある。この個別案件についてどういうプランでどうしたらいいということを私は言えないが、やはり行政が間にに入って、双方の言うことを聞いて調整する場面が必要だと思う。

【D委員】 ご意見のとおり、先日、建設委員会で陳情という形で出され、公の場で陳述者と議会、市と議論させていただいた。住民の方が不安になっている点は重々わかってお

り、これから市が事業者と協議する。市民が求めているところは一定の整理ができる。その方向で事業者と協議ができると思う。推移を見守っていただきたい。

【委員長】 まちづくり条例があるにもかかわらず、市民不在の議論が進んだというところはどう理解すればいいのか。

【D委員】 まちづくり条例は、一定の法的な縛りがある中で、事業者と市で調整する仕組みを定めているものである。協議の推移を見守っていただきたい。

【市民G】 法政高校が三鷹のほうに移転するという話も、既に事業者に売られた後で知った。これがまちづくり条例の大問題の根本だ。私たちは知る権利がある。まちづくり条例の根本は、住民にまず知らせ、住民と一緒に行政が同じテーブルについて業者とも話し合いをするところにある。

法政高校は、学校ということだけで高度制限がなかった。用途地域を変えるという大事な部分を行政は見落としたのだろう。美大も 15 メートルの高度制限となっている。こういうことが結局、住民が被害を受ける原因となっている。

【D委員】 まちづくり条例は、平成 21 年に制定された。法政のときは宅地開発指導要綱の指導だったと思われる。法政の跡地売却があって、地区計画を立てた。まちづくり条例では、基本構想、基本計画という段階を踏んで地元の人たちに説明する。市民にお知らせする仕組みは指導要綱のときよりもバージョンアップしたと捉えている。

【委員長】 不動産の売買は個々で行われるものだ。ただ、大きな土地の用途を変えてまでもディベロップするのだから、周りの人は知る権利があるというご主張だ。それは法的には知らせる必要がないのか、あるのか。知る権利があって、知らされていなかつたら差しとめもできるのか。

【D委員】 一定の規模の土地の取引は事前に市に情報として入ってくるが、規模が小さければ、民民の売買契約になるので、情報が市に入るには遅くなる。

【市民H】 美大の場合は規模が大きいので、市に先に情報が入っている。私たちは、コミュニティ協議会の人たちが、美大は移るとうわさしていて知った。11 階建てが建てられるというのも、うわさで知った。こういうことに慣れていない住民は、何が起こっているのかわからず、右往左往するばかりだ。

また、ふれあい公園ができたと思ったら、今度は 8,500 立方メートルの汚水が入る貯留槽ができた。これも私どもは知らなかった。女子大通りの下には全市の 70% の下水が流れしており、その多くが善福寺川に垂れ流しになっている。私たちの汚い水で杉並区の方た

ちにご迷惑をかけてはいけないということで貯留槽をつくることに協力したが、先日のゲリラ豪雨のときも、杉並の方から、善福寺川の水位がどんどん上がって道路は汚水だらけだという連絡を受けた。貯留槽をつくっても、善福寺川への越水が起こっていることを武蔵野市民はあまりご存じないと思う。善福寺川に汚い水が入り込まないような下水道の整備をしていただきたい。野川に新しい処理場を武蔵野市と三鷹市が一緒になってつくれば、70%のうちの何十%かは、そちらのほうに行くと聞いている。そのためには何億ものお金がかかるということも聞いている。でも、隣のまちの方たちに迷惑をかけてまで下水道の処理を押しつけるのはいかがなものか。

【D委員】 武蔵野市の場合は早くから市街化され、水道も下水も昭和20年代から敷設してきた。大きな河川がなく、処理場をつくる用地もなく、東京都の区部流入という暫定処理は今も続いている。

8,500トンの貯留槽も、晴天時に善福寺川に汚水が溢水しないように、一定程度貯留する形でつくらせていただいた。野川の新しい処理場は、かなりの費用がかかることではあるが、その方向で動いている。今日明日にできることではないが、課題として捉えている。

【C委員】 1つ目の学校敷地が住宅になったという案件は、私はタッチしていないので不用意なことは言えないが、前は教育施設で今度住宅になるということには、やはり用途地域の問題から何らかのチェックがなければおかしい。

下水道の問題は、武蔵野市だけ頑張ってもだめで、東京都次第のところがある。

【副委員長】 東町三丁目の美大の跡の事業者のマンション開発に関して、コミュニティの皆さんに対し、行財政分野の担当として責任を痛感している。六長調の行財政分野の基本施策1の3「様々な主体との連携・協働の推進」(計画書101ページ)には、「市職員が地域に出向く機会を創出し、市民とともに学び、市民との信頼関係及び相互理解を深め、地域との連携・協働を推進する」として、多様な問題に対する方向性を書き込んでいるにもかかわらず、現状において全く実現できていない。既存の調整計画に位置づけられたものが、市のサービスに対して不整合を起こしている。この調整計画をつくる中で、皆さんとも確認をしつつ、私どもとしてできることをしていきたい。

法政の跡地のときにはまちづくり条例がなく、指導要綱しかなかった。そのために、みんな苦労したからというのでまちづくり条例を立てたら、手續が明確になったとして、これさえやつていればいいでしょうと、ディベロッパーにまちづくり条例を盾に取られてしまつた。これでは、ないほうがましだった条例になつてしまう。まちづくりは総合解なの

で、難しい。東町地域は法政を経験したので、コミュニティがしっかりとしているが、同じことが経験値もなく人のネットワークも弱いエリアで起きたら、ディベロッパーにいいようにやられてしまって、住民は抗すべき手段がない。

武蔵野は、大規模マンションよりも中型、小型マンションの開発が一番恐るべき課題だ。これに対してどういう解を用意していくのか、調整計画に書き込めるかは別としても、皆さんと議論して、方向性に対して少なくとも問題提起はしたい。

【市民H】 雨水浸透ますをどんどんやってもらうようにもっとPRしてほしい。とても大事なことだ。今すぐできる。

【市民I】 子育て世代への外出支援について。2人の子どもが0～2歳のとき、外出には苦労した。レモンキャブのような、安心して利用できる移動支援が導入されたら子育て世代のさんは助かると思う。産後数カ月は移動が大変だったので、こども商品券（タクシ一代金の支払いに利用可能）の配付はありがたい。しかし、子どもの成長とともに大変さの質が変わる。商品券は結局使ったら終わりで、後々までありがとうございましたという感謝の意識が継続するわけではない。また、商品券などを配ることは、世代間の分断にもつながる。子育て世代だけが優遇されているという意識につながるのは逆効果だ。

知り合いの子育て中のお母さんたちにも現状について聞いたところ、バス利用時は周りの冷たい視線や言葉がつらいと言っていた。私も同じ経験をした。一番は世代間で理解を深めていくことで、子育て世代を温かく見守ってくれる社会、高齢者も、子どもを育てていない世代も、みんなで理解して暮らせる社会の実現が大切だ。

【A委員】 私は職場に行くのにいつもバスを使う。お子さんを連れたお母様やお父様が乗ってこられたら、席を譲るようにしているが、中高生も含めて席を譲らない人の何と多いことか。市長は、病気や出産時を主に想定されているようだが、市長公約の範囲で外出支援として何ができるかという部分と、子育て世代を支えるとはということをどう書いたらいいのかにまだ迷いがある。アイデアをいただきたい。

【市民J】 子どもを産んだときはとても大変だったので、タクシー券をもらったら私もうれしい。でも、今どうしても病院に行かなければいけないというときは、若さもあるので、頑張って外出する力はあると思う。本当にうれしいのは、出かけたときにベビーカーを持ってくれる、席をかわってくれるとか、じっとしない子どもを座らせてという視線を向かないでいてくれることだ。

「就労を含めた高齢者の社会参加の支援」についての「これまでの取組み」を見ると、高齢者がいるところで高齢者が活動している。子育て支援のボランティアも、子育てしている世代が子育て世代に寄り添う形で、それぞれの世代に隔たりがある。多世代で交流ができる仕組みをつくってもらえると、より声をかけやすくなり、関わりやすくなる。

土地柄もあると思うが、田舎育ちの私は、小学1年生にもなれば、1人で公園に行って友達同士で遊ぶという感覚だったが、武蔵野市の親や公園の近所の方の中には、小1の子を1人で公園に遊びに行かせるなんて親は何をやっているんだという感じがある。また、子どもが小学校に上がると、働くとする親が増えて、子どもたちは野放しになり、見てくれる人がいないと心配な行動を起こす。知っている子だったら「ダメよ」と言い、「あなたのお子さん、そこで遊んでいたわよ」と声をかけやすいが、知らない子には、「あの子、またいるわ」「あの子、何やっているのかしら、あんなところで」という見方になる。地域と密着した社会のつくり方がもっと進めば、お金をくれるとかではなくても心が豊かになるまちづくりができるのではないか。

【A委員】 外出支援のところにどう書き込めるか検討する。また、私は市の子どもプランの委員会メンバーでもあるので、いただいたご意見をその委員会に伝える。

【市民K】 子どもプラン推進地域協議会の委員をしている関係で、市保連で子育て世代の外出支援に関して関係者に意見を求めるところ、幾つか意見をいただいたので、報告する。

1つ目、1子なら公共交通機関での移動手段は特に難しいと思わない。2子までは大人1人で自転車のチャイルドシートに乗せて移動できるが、3子いたり、妊婦だと、自転車移動はできない。乳幼児の数によって移動の困難度合いが変わる。単に子ども1人当たりの助成をしたり、多胎児家庭だけを対象とした助成をするのではなく、多子家庭等、公共交通機関での移動が特に困難な家庭を対象とした政策をお願いしたい。

2つ目、外出支援について。オンライン診療や往診、宅配サービス等、生活に欠かせないことで無理に外出しなくて済むシステムの助成拡充を検討いただけないとありがたい。

3つ目、現行のムーバス（北西循環）の運行時間を1～2時間早くしてほしい。復路運行もあると移動しやすい。

4つ目、レモンキャブに子育て家庭を追加することは、現在のレモンキャブの台数や支援対象に鑑みると現実的ではない。登録制のエリア固定タクシーは、タクシー事業者が利

益を得るのが難しいと思われる。検討目安は令和8年とのことであり、現在の子育て家庭への支援に直結しないのは非常に残念だ。現在の子育て世代にも早急な対応をしていただけるとありがたい。

5つ目、埼玉県三郷市の子育て移動支援（「テーマ別論点集」9ページ）が非常に魅力的だ。

【B委員】 外出支援に関するご意見について、策定委員会で議論する。

市保連と子ども育成課との意見交換の場がある。すぐにできるものについて、そこでも対応を検討したい。

【市民B】 武蔵境から市役所に行くムーバスがない。全日でなくとも、朝と帰りの時間だけでも、ぜひ開設していただきたい。

【市民L】 学校の改修について。五小と井之頭小学校の4月の説明会で、生徒と近隣の方々の負担を少なくする改修をしてほしいという声が出ていたが、「テーマ別論点集」には全く載っていない。4月以降も途切れなく声が出ているが、なぜ全く出でていないのか。

【委員長】 これは、市長の公約が読み取れない、または読み取れるが市長の熱い思い入れがあるところについて議論するためのものだからだ。市長の公約に入っていないことは、論点集から欠落している。

【市民L】 それではわかりにくい。今までそういう説明会等で実際にあった声はどこに消えてしまったのか。声は伝え続けられている。これでは11月に計画案が発表となっても、また同じことが起こるのではないか。

【委員長】 公約に入っていないことについての意見は、第七期長期計画に打ち込むことになる。

【市民L】 長いものでは何年も、同じことについて声が届けられているのに、表面にあらわれてこない。その声をほかの市民が知る機会が全くないのが不思議だ。

【副委員長】 調整計画は5年間有効で、個別の計画を全部書き込むのではなく、個別の計画を実行できるように抽象的な文言で書いていく。例えば何々プロジェクトをやるということは書かない。今回は、その中でも市長の具体的な公約が、抽象的な文言でも読み切れないところをどうしたらしいのか諧っている。

【市民L】 何十年と同じ声が、こういう意見交換の場で出続いている。それを知る機会

に対応していただきたい。声があつたこと自体を知る機会があつたらと長年思つてゐる。

【副委員長】 長期計画に関しては、毎回の議事録が公開されているので、声があつたことは追える。個別計画も、議論の内容は基本的に議事録公開になつてゐるから、追おうと思えば追えると思う。

【市民L】 長期計画について、何年も同じことに関する声を知る機会が議事録以外にはないのか。声があること自体、知らない人が多い。

【副委員長】 長期計画に関するることは5年に1回なので、5年に1回の場で声を上げてもらうしかない。それがどのように反映されたかはその場その場で確認していくしかない。

長期計画は、個別計画やプロジェクトリストをつくるものではなく、そういう短期のものは年間の予算計画書の中で位置づけられるものだ。予算的に裏づけがなかつたら、長期的な施策が展開できないから、市役所はこういう方向でやっていきますよということを皆さんと議論する。今回はたまたま市長選が入つたので、調整計画の不整合を起こすところに二次調整をかけた。

【市民L】 同じ計画の同じことについて、いろんなところで上げられている声を知る機会を設けていただけたらと願つてゐる。

【委員長】 必ずしも全てを吸い上げられるわけではなく、例えば私が長期計画の緑・環境分野を担当していたときは、緑と水のネットワークが大事だという意見が上がってきたら、それを書き込んだ。アニマルウェルフェアについても書き込もうとしたが、それはいろいろな議論でだめになつた。いろいろなことがあるのでウォッチして適宜ご意見をいただきたい。

【市民M】 子育て世代の外出支援には障害者を含めていただきたい。住宅のこと、グループホームのこと、高齢になったときのことが心配で、毎年市に要望している。また、人手が足りず、支援を受けたくてもガイドヘルパーが少ない。

テーマの1番「就労を含めた高齢者の社会参加の支援」でも、障害者が高齢になつてもしっかり仕事を続けられ、よりよい生活が続けられることを考えていきたい。その人員の問題も考えていただきたい。

健康に高齢になっていけるように支援していただける方向で考えていただきたい。

【副委員長】 皆さんそれぞれが必死に個々の生活をつくっていることが伝わつてくる。

ここで一市民として皆さんと一緒に考えていかなくてはいけないのは、そういう福祉施

策をやるとき、その予算はどこから切り出さなければいけないということだ。武藏野市は、様々な政策を展開している。それは、財政がほかの市に比べて圧倒的に豊かだからだが、余力があるわけではない。毎年の予算は使い切っており、何かの施策を進めるためには、ほかの施策の予算を削らなければいけない。何十億というプロジェクトを1本諦めることができたら、別の施策を何年間か展開できることもある。どちらを選択することが正しいかということに絶対解があるわけではない。制約条件の中で何に優先的にお金を振っていくのか。各個別計画を立てる中で、どれを優先していくかを市民みずからが市役所と一緒に考えていかなくてはいけない。

【市民N】 19 ページの「吉祥寺イーストエリアのまちづくり」について。以前駐輪場だったところが今は白い囲いがされている。複合的なコミュニティセンターをつくる予定だということを知ったが、その具体的な構想ができるのはいつごろか。また、いつごろ工事が始まり、いつごろでき上がるのか。つくる過程において市民はいつ、どのような場で意見を述べられるのか。

【B委員】 イーストエリアのコミセンの移転については、今、コミュニティ協議会の方と意見交換している。中高生にもアンケートをとり、先般まとまったところだ。これから基本計画づくりに入る。意見募集の機会は何回かあると思う。イーストエリアのまちづくりのテーマで策定委員会でも議論になると思うので、そこでもご意見をいただきたい。コミセンが移ることは確定しており、そのほかで中高生の居場所にという意見が出ている段階である。

【総合政策部長】 総合政策部が調整に入っているので、状況について説明する。

まず、確実に決まっているのはコミセンのバリアフリー等も含めた移転だ。ただ、土地のキャパシティーが大きいので、複合的な施設になることがおおむね示されている。基本計画を策定中で、コミュニティ協議会と調整しながら進めている。中高生世代や地域の方に向けてアンケートをとったほか、今後もタイミングに応じて意見を聞く場がある。

大きな方向性は、今副市長が申し上げたとおりだ。中高生世代の居場所を計画しているが、現在確定はしていない。基本計画がある程度できたところでお出ししたものについてご意見をいただきたい。それから基本設計、実施設計に入る。設計が終わるまでに2年ほどかかる。

【委員長】 今日、午前中、むさしのエコ re ゾートで、策定委員と中高生世代との意見

交換会があった。中高生世代からは、プレイスのB2フロアのような、気兼ねなく集まれて、カップ麺などを食べることもでき、語らえる場所が欲しいという意見があった。中高生世代にとっては、過ごしやすさは西高東低になっているようだ。若い世代の声を吸い上げ、いいコミセン、いいコミュニティをつくることにご協力いただきたい。

【市民N】 本町コミセンにも北町コミセンや西部コミセンのような体育室が欲しい。ビル的な感じになるなら、そのうちの1フロアを体育室みたいなものにしてもらいたい。北町コミセンや西部コミセンは、スポーツのことが全然考えられていないので、スポーツをする者としては使い勝手が悪い。コミセンの具体化の際は、そういう意見も吸い上げてもらいたい。

【委員長】 中学生からは防音装置をという意見も出ていた。

【市民O】 科学技術等の研究に対するリソースをもう少し割くと、解決できることがたくさんある。例えば、移動の問題では、オンデマンドバスを自動運転にして、保育士や看護師を必要に応じて乗せる。全部AIでシステムチックにやれば、問題はほぼ解決する。

また、今コロナがはやって困っているのに、この会場は換気していない。私が窓を開けろと指示をしたので、感染は防がれた。

ほかにも知恵をかしてほしいということであれば、お答えする。

【委員長】 これから技術が進んで、移動などが楽になるのは当たり前だが、市がどう取り組んでいくかは難しい問題だ。

【市民J】 私は行ったことはないが、桜堤のテンミリオンハウスの花時計は、幼児連れのお母さんがご飯を食べに行けると聞いたことがある。

テーマ1「今後の学校の改築のあり方の検討」の「テーマ設定の趣旨」の最後に、「あわせて、児童・生徒が一人1台タブレットを持つ」とある。小学生にタブレットは要らない。小学生は授業中、インターネットにつなげて検索する。観察には電子機器のカメラを使う。そういうことはこれから大事だが、お友達とのディスカッションや、図書室に行って調べる、スケッチすることを頑張るのも、学びには大事だ。

子どもたちは電子機器への壁がない。タブレットにはアプリを入れられないし、USBも余計なものがつなげられないように設定されているが、親が見張っていなければ、子どもたちはインターネットでユーチューブを見る。学校でのみ、または宿題が出たときだけ

持って帰るなどができないか。タブレットは大学生になったら使えばいい。

【市民E】 テーマ1 「就労を含めた高齢者の社会参加の支援」についての市長の話を、わかるわかると思いながら聞いていた。社会に出ていくことで、高齢者は会話できるし、予防もできる。でも、高齢者と言っても、60代、70代、80代以上のそれぞれで、その人にできること、できないことがある。仕事をしている人はいいが、仕事をしないずっと家にいた人は、どう活躍していけばいいのか。

また、仕事をやめたという人に「コミセン、いかがですか」と声をかけると、時給の話になる。支え合う、お互いさまというものが武蔵野市には昔からあった。それを引きずつて、誰かが助けてくれるだろうと思って長い間住んでいらっしゃる方も多いのではないか。高齢者の社会参加についてもう少し考えてもらえたうれしい。

【市民C】 外出支援についてのアイデアとして、すぐすぐ泉が「地域子育て応援 みんな泣いて育ったから」というシールを配っている。「温かく見守られて育った子どもたちやその親が、やがて地域の中にある高齢であったり障害であったりという様々な事情を抱える方たちに心を向けることにつながり『お互いがお互いの事情を思いやる温かい地域』を目指すもの」で、これはまさに解決の1つだ。

【市民P】 子どもたちは吉祥寺界隈では夜の20時以降、喫茶店やファミリーレストランで勉強している。ぜひ様子を見に行ってほしい。

【委員長】 今日の中高生世代の意見交換会では、あそべえや学童に通っていた子どもたちから、大人が遊んでくれる環境がありがたかったという意見があり、はっとさせられた。

また、私たちが「年配の方々の支援をどうしたらいい?」と投げかけたところ、例えばテンミリオンハウスに駄菓子屋をつくったら、小中学生がお菓子を買いに寄れる。気楽に寄れる環境があれば、高齢者とのコネクションも増えるし、スマホの使い方を教えてあげられるという意見があった。年配の方々は若い人を見るだけで元気になる。今はテンミリオンハウスと小・中学生の間には隔りがある。

その他、ウォーターサーバーが欲しかったという意見や、図書館が過ごしやすくなるといい、ソファーのようなものが欲しい等の意見もあった。こうした意見を市の施策に反映

できるようになるのが私たちの仕事だと思っている。

本日はお忙しい中、会場にお運びいただき、貴重な意見をたくさん賜り感謝申し上げる。

事務局が、追加意見の提出方法と今後のスケジュールについて案内し、意見交換会を閉じた。

以上